

淀川テクニック

淀川テクニックは、柴田英昭と1歳年下の友人・松永和也とのユニットのアーティスト名である。2016年、松永が脱退し、現在は柴田個人の活動となっている。2003年、大阪・淀川の河川敷を活動の拠点として制作が始まった。ゴミや漂流物を使って立体を制作している。東日本大震災で津波被害を受けた宮城県仙台市若林区で地元の人たちとともに防風林を使った作品を制作したことで知られている。代表作としては、柴田の出身地である岡山県の宇野港に常設展示されている「宇野のチヌ」が有名である。国内や海外でゴミや廃材を使った作品をつくることで、現代の環境問題を考えるきっかけを提示している。